



四国だより

2023.1 第1号



一般社団法人 日本道路建設業協会四国支部

支 部 長 挨 拶

新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。会員の皆さまにおかれましては、常日頃より道建協の活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年はコロナ禍に加えて原材料の高騰により、道路建設業界にとっては、大変に厳しい環境にさらされた年でした。今年も昨年と同じような環境がしばらく続きそうですが、このようなときこそ協会活動を通して、業界の発展に貢献してまいりたいと考えます。



私ども、一般社団法人日本道路建設業協会は、活動目的を「道路建設技術の向上、研究開発及び道路建設業の健全なる発展を図り、もって道路整備の促進に協力し、公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。」とその定款に謳っております。

具体的には、道路に関する広報や技術指導、道路技術に関する機関誌の発行や道路行政への建議などを行っていますが、皆さまに馴染みの深いところでは、舗装施工管理技術者や舗装診断士などの資格試験の実施や講習会の開催なども、当協会の事業のなかのひとつです。

そしてこのたび、四国支部としては初めて、支部広報誌「四国だより」を発行することとなりました。1年に1回の発行ではありますが、会員の皆さまに協会の活動を少しでも知っていただけるよう、楽しく読みやすい誌面を目指して参りますのでご期待ください。

さて、昨年の11月13日に高知県南国市の物部川河畔で、令和4年度の大規模津波防災総合訓練が実施されました。当日は残念ながら終日雨天でしたが、斎藤国土交通大臣はじめ多くの国会議員や高知県知事等の来賓を迎え、四国地方整備局長の号令のもと、107の関係機関が連携して、南海トラフ地震により発生する大規模津波を想定した防災合訓練を行いました。

道建協も関係機関のひとつとして訓練に参加し、四国地方整備局土佐国道事務所、陸上自衛隊と協力して、土のうによる路面段差修正の作業を行いました。南海トラフ地震は今後30年以内に発生する確率は70から80%といわれており、このような実践的な訓練がいつ役に立つとも限りません。

また、道建協四国支部では災害発生時に、災害協定先からの要請に迅速に応えられるよう四国4県の県毎に幹事会社を選定して、災害用備品の備蓄も行っております。災害発生時には頼りになる、そんな道建協を目指したいと考えております。

むすびに、この一年が皆さまにとって素晴らしい年となりますことをご祈念申し上げて、年頭の挨拶とさせていただきます。

支部長 米岡拓彦
(株式会社NIPPO四国支店執行役員支店長)

幹 事 長 挨 拶

新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

一般社団法人日本道路建設業協会四国支部幹事長の細田でございます。協会員の皆様におかれましては、常日頃より当協会の活動にご支援とご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

当協会は昭和20年の創立以来、日本の道づくり一筋に幅広い活動を展開してきました。四国支部においては13社の会員を擁する団体として「道路整備の推進」「道路技術の向上」「道路建設業の健全な発展」の3つを基本方針として活動してきました。舗装業界が魅力ある業界へと発展するために本年度も時代の変化に対応できるよう、柔軟な組織運営を目指して参ります。

日本において近年労働力は女性や高齢者の就業促進により増加しているもののコロナ渦においても根強い人手不足感は続いており、今後も続くことが予想されています。また近い将来に発生が予測されている南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模な自然災害の発生は、インフラの機能停止に留まらず、医療機関や自治体の重要機能の喪失にも繋がり兼ねないものとなります。差し迫った災害リスクへの備えとして、防災・減災対策、国土強靱化への取組の加速が待った無しの状況であります。舗装業界としても、新・担い手3法に基づきDXによる生産性向上の加速化に使命感を持って取り組んでいくことに鋭意努力をしていかなければならないと考えております。会員皆様のお力添えを是非とも頂けますよう宜しくお願い申し上げます。

最後に、会員各社皆様の今後益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。



幹事長 細田武志
(日本道路株式会社四国支店支店長)

支部活動

道の駅への発電機の寄贈

四国支部では、社会貢献活動として平成24年度から道の駅への発電機・投光器の寄贈を行っており、令和3年度までに37駅への寄贈を実施しました。

今年度は、令和4年5月12日に愛媛県西条市にある道の駅「小松オアシス」への寄贈式を開催しました。



米岡支部長挨拶

道路整備を生業としている我々としては、災害時の支援体制をどのように行うのかを協会の使命として取り組んでいる。

発電機は停電時の保管電源となる。災害時には家族の安否確認や情報収集の重要な手段となるスマートフォンの充電に活用され、地域住民の皆様への安心の提供になれば幸いです。



玉井西条市長挨拶

南海トラフ大地震の発生に備え、避難した方が防災機材を利活用できるよう、施設の防災体制をさらに整え、安全・安心を確保したい。

※玉井市長から米岡支部長へ感謝状が授与されました。



前列左から、中屋松山河川国道事務所長、玉井西条市長、米岡支部長
西条市からは松田建設部長、辻中観光振興課長にも参加して頂きました。



愛媛県南海放送のニュースで放映していただくことができました。(タイトル 地域の防災拠点「道の駅に」発電機を寄贈)

支部活動 令和4年度大規模津波防災総合訓練

令和4年11月13日(日)に南海トラフ巨大地震を想定した大規模津波防災総合訓練が高知県で開催され、国や地方自治体、建設業団体など107の機関が参加しました。

四国支部からは㈱NIPPON四国支店が代表として参加し、陸上自衛隊、西日本高速道路㈱、土佐国道事務所と連携し路面に発生した段差の応急復旧訓練を行いました。

当日は雨天となりましたが、それぞれの機関において救助・救出訓練、道路啓開訓練、ライフライン復旧訓練、消火訓練、緊急排水訓練などが本番さながらに実施されました。また、訓練状況についてはYouTubeでリアルタイムに配信されました。



▲斎藤国土交通大臣 挨拶



▲雨の中、自衛隊と協力し200個の土のうを使用
して段差の解消訓練を実施



▲ハンドローラーを用い土のうの転圧を実施
滑らないよう土のうの上に砂を散布しました



▲訓練終了、全員で整列



▲NEXCOによる緊急車両の走行訓練



▲㈱NIPPONの皆さん、お疲れさまでした

支部活動 道路舗装に関するWeb技術講習会

今年度からの取り組みとして、令和4年12月7日(水)に四国地方整備局災害対策室において道路舗装に関する技術講習会を開催しました。

講習会は多くの方が参加できるようWebで開催し、四国地方整備局の若手職員、技術系大学生、四国支部会員ら約100名が参加しました。

建設業会の魅力を外部に向けて発信していくことは人材確保のため重要な取り組みとなっていますが、支部単体では発信力が弱いため官民連携して行うことが効果的です。

今回は会員会社から5名が講師となり、ご自身の体験談を交えながら説明を行いました。また、講義が単調にならないよう実際のコンクリート舗装工事の動画を流しながら行うなど、受講者が興味を持ってもらえるよう工夫しました。



▲講習会 全景



▲四国地方整備局 井上技官 魅力ある建設業に向けて



▲NIPPO 山根さん 富田さん 舗装工事の概要



▲東亜道路工業 小河さん アスファルト舗装の設計



▲前田道路 佐伯さん 舗装の損傷事例



▲日本道路 入船さん コンクリート舗装の施工

会 社 紹 介

株式会社 愛亀

愛媛県松山市に本社を置く、(株)愛亀です。

昭和32年4月に創業以来、舗装工事を中心に建設資材の販売、管路メンテナンスや技術開発を行っています。

近年では、町のインフラ事業を手掛ける「愛亀グループ」として、様々な分野で事業の幅を拡大させており、海外へも進出し、カンボジア国では現地法人を設立してマネージャー2名を派遣しているとともに、JVの構成員として大規模な道路工事を受注し、今現在もエンジニア3名が日本の技術を駆使して施工にあたっております。

将来を見据えて、ICTを活用した工事を進め、技術力向上や人材確保に繋げ、65年続けてきた精神を次世代に継承していきます。



▲事業本部



▲ICT 施工

●2022年9月「サラメシ」出演

中井貴一さんナレーションの、皆様ご存じNHKの「サラメシ」に出演させていただきました。



カンボジアの道路工事に携わるエンジニアやスタッフの活躍を紹介したいという思いで何気なく応募したところ、まさかの取材依頼が届き社員一同驚愕でした。しかしながら、コロナ禍のためNHKスタッフは海外渡航ができないとのこと。

「じゃあ、私が撮ってくる。」と名乗り出たのは、代表の西山社長でした。もともとサラメシファンでもあったのは、写真を見て頂けたらわかると思いますが、嬉しそうな気持ちが背中から溢れています。

放送内容はNHKさんのホームページからご覧頂けたらと思いますが、愛媛県の中小企業社員でありながら、海外という慣れない環境に四苦八苦しながらも会社を代表して、大きく言えば日本を代表して施工にあたるスタッフたちはとても誇らしく感じます。工期はあと半年足らずですので、無事に竣工を迎えられ、英雄たちの凱旋を心待ちにしております。



会社紹介 大林道路株式会社 四国支店

大林道路は、大林グループの舗装専門業者として、昭和8年（1933年）に創業し、以来、社会基盤の発展に寄与してきました。当社は、舗装工事、土木工事、建築工事を中心として事業を展開し、当社グループ会社の東洋テックス㈱では、管更生事業にも取り組んでいます。四国支店では、工事を担当する営業所を高松市、徳島市、松山市、高知市に、合材工場を高松市、阿波市、高知市、西条市に設置し、支店管内の工事に対応しています。今回、ご紹介する内容は「ICT研修会」と「施工技術発表会」の話題についてお送りします。

1. ICT研修会

今年の6月15日に、若年者を中心とした「普段使いのICT研修会（小規模工事対応）」を実施しました。i-Constructionは、ICT（情報通信技術）の適用により高効率・高精度な施工を実現するものです。国道における新設工事のように、大規模なものについては本店の支援を受けながら定着しつつありますが、比較的、規模が小さな民間工事等でも、普段使いのICTとして活用できるよう、推進し展開を図っています。



2. 施工技術発表会

1991年より毎年開催している施工技術発表会は、今年で32回目の開催（11月10日）となりました。新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年と一昨年はオンライン開催のみでしたが、今年は3年ぶりに会場（東京）とオンライン配信のハイブリッドで開催されました。

現場の創意工夫等の技術情報を全店に水平展開する場として、また若手職員のプレゼンテーション力育成や技術交流の場として定着しています。建設業界では生産性の向上と労働力の確保が引き続き大きな課題となっており、当社においても次世代を担う若手職員に、その能力を十二分に発揮し、躍動する意識を持ってもらうことが必要と考えています。



会社紹介 株式会社ガイアート 四国支店

安全衛生への取り組み ～小冊子『安全作業の手引き』～

『安全作業の手引き』は、安全関係法令や社内規定等に則した、作業等における「共通のルール」を取りまとめた小冊子です。2002 年度に初版を発行してから今年度で 21 版目となるわが社の安全文化のひとつです。常に最新の情報となるよう、毎年度見直しを行っています。この小冊子を当社の役員・社員、協力業者の事業者・従業員が携帯し、『安全は何よりも優先する』を実践しながら安全で安心な職場を目指しています。

【表紙】



【裏表紙】



【飛来、落下のページ】



社会貢献への取り組み ～ボランティア・サポート・プログラム～

国交省が主催するボランティア・サポート・プログラムの「実施団体」として認定されております。活動内容は国道 11 号上天神交差点から三条交差点までの美化・清掃活動を月に1回、15名の参加で行っています。国道沿いということもあり、ゴミが多く毎月ゴミ袋いっぱいになりますが、皆道路沿いを綺麗にしたい、緑を大切にしたいという思いで参加しています。



保有技術で社会に貢献 ～環境対策『G・As シート』～

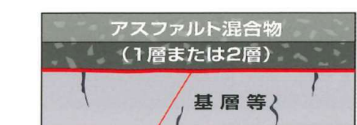
『G・As シート』は、アスファルトと特殊骨材のみで構成された持続可能な社会に貢献する 100%リサイクル可能なクラック抑制シートです。補修工事ではアスファルト合材と一緒に切断ができ、廃材に混入しても手作業での排除は不要となるためそのまま再生合材として利用可能です。

【G・As シートの特徴】

- ①従来の舗装で使用されている材料(アスファルト+骨材)のみで構成
- ②リフレクションクラックの抑制に効果あり
- ③人力による常温施工が可能
- ④アスファルト混合物層下に敷設することで混合物の防水性能が向上
- ⑤補修・修繕時の切削機による切断性に優れ、作業効率向上に貢献
- ⑥補修・修繕時の G・As シートを含む廃材はそのまま細かく破碎され 100%リサイクルが可能
- ⑦面的敷設時では従来製品に比べてラップ長を減らせるため使用材料を 10%程度削減可能

使用用途

◆ 一般舗装のクラック抑制対策



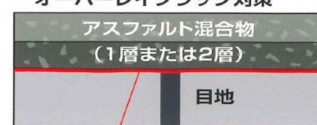
G・Asシート
既設路面を切削し、G・Asシートを敷設したのちに舗装を行います。

◆ 排水性舗装のクラック・防水対策



G・Asシート
車道排水性舗装における基層面と表層の排水性混合物との付着性の改善ならびに基層混合物の劣化防止に用います。

◆ コンクリート舗装版上のオーバーレイクラック対策



G・Asシート
目地部あるいはひび割れ発生箇所のリフレクションクラック発生を抑制します。

施工方法

1. 設舗装面の清掃後、タックコートの施工
2. G・Asシートの敷設
3. ローラ等による簡単な転圧
4. オーバーレイ舗装の施工

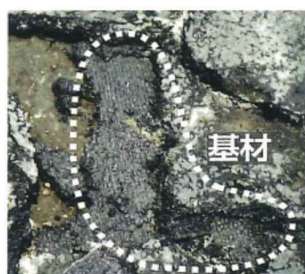
※部分的に使用する際はRDプライマー（別売）で接着することも可能です。



簡単施工



再生利用への影響



従来製品の場合、再生工場
基材を手作業で排除する等の
問題が...



G・Asシートは舗装で使用されている材料のみで構成
しているため廃材とともに破碎され排除手間は不要
100%再生利用可能です。

G・As シートが混入した廃材を再生利用しても、再生骨材製造所での排除作業や再生骨材 13-0 への影響を与える事はありません。これまでのガラス繊維等の基材が混入した廃材が発生した場合は、廃材を最終処分とせざるを得ませんでした。G・As シートを使用することにより、補修や修繕時の廃材中に建設副産物が発生しない未来を実現できます。

カンボジア国より!

私は現在カンボジア国バタンバン州にて舗装工事をしています。2020年10月1日から赴任してから早いもので2年が経ちました。今ではすっかり馴染みましたが、カンボジア生活で感じたことを徒然に綴ってみようと思います。

カンボジアに住み始めた頃、まず驚いたのは街の匂いが独特なものだったことです。今は慣れて感じませんが・・・。

気候の面では、雨季になると突然の大雨で道路が一瞬で冠水します。雨の降る量も半端なく、一粒が大きいので逃げ遅れるとパンツまでビショビショに・・・。

ビショビショ繋がりで言うと、住居のお風呂とトイレが一緒になっており、シャワーを浴びると床がビショビショになってしまいます。お風呂とトイレを別々にしてもらいたい・・・それから、バスタブも無いので日本のお風呂のようにゆっくり浸かることができません。他にもカルチャーショックを受けることは多々

あります。現場近く



のスタンドでトイレを借りた際、トイレに入って事をすませた後にトイレットペーパーがないのに気づきビックリ! どうして良いかわからず周りを見渡したら、バケツに手桶と水が置いてあります。まさか手桶で水をくみ手で洗う?初めての出来事でしたが、動けないので仕方なく戸惑いながら手で洗い、拭くことも出来

ず濡れたままでパンツをはいた記憶が鮮明に残っています。カンボジア人に後から聞くと、水で洗って濡れたままでパンツをはくのは当たり前のことだそうです・・・これだけは今でも無理です。

少し町を離れ田舎に行けば水道がないので、雨水を大きな瓶に貯めて洗濯や食器を洗ったりしています。もちろんお風呂も料理の水もすべて瓶に貯めた水を使用します。最初は抵抗がありましたが、今は問題なく雨水を使えるようになりました。そんなトンデモない体験も数々ありますが、カンボジアに住んで、カンボジア人の優しさには度々救われてきました。



例えば他人の土地に勝手に入って休憩していたら、怒られるどころか椅子まで出してきてくれて歓迎してくれます。また木に果物が熟していたら、いくらでも採ってください状態・・・どこの人もみんな人が良く同じなのでビックリです。

そして、たくさんのカンボジア人と友達になることができました。

仕事については、国際プロジェクト(ODA)の仕事に携われて光栄に思います。

不安を抱きながらカンボジアの地に着き「何とかなる」と言い聞かせ現地に乗り込んだのを今でも思い出します。日本人スタッフを含め素晴らしいメンバーに恵まれ仕事ができることを幸せに感じ日々頑張っています。また、あまり言葉は通じませんが現場ではカンボジア人スタッフと楽しく和気藹藹と仕事をして工事完成を目指しています。



ただ大変なところや辛いところは、一言で言えば「暑さ」です。

カンボジアは、日中の温度が37度を超え舗装工事が始まると160度の材料を敷き均すためサウナ状態です・・・作業服が上から下まで毎日ビチャビチャになっています。

総延長44kmで右車線と左車線を合わせれば88kmという長さを考えると気が遠くなりますが、カンボジア料理のスープ『トムヤンクン』や酸っぱいスープ『スガオナンガウ』を食べて疲れを吹き飛ばし日々頑張っています。

カンボジアに来てからの食事面については、この『スガオナンガウ』に出会えたこと



は本当に良かったです。日本には無い酸っぱいスープで、私のパワーの源となっているので、作り方を教えて貰って日本でも作りたいと思っています。

赴任当初はパクチーが苦手でカンボジア料理のほとんどが食べられない日々を過ごしていました。毎日、ご飯＋ふりかけだけ・・・。なぜ慣れたのかわかりませんが、今ではパクチーがないと物足りないようになり

カンボジア料理をおいしくいただいています。

最後に、今後の目標や夢は「全力で工事の完成を目指して頑張る！」それだけです。そして無事工事が完成し日本に帰ったら、酸っぱいスープ『スガオナンガウ』を家族に振る舞いたいと思います。

会員だより 大林道路株式会社 田中 俊子

わたしのチャレンジしたいこと！

お遍路さんでよく知られている四国八十八カ所巡り。

小学生の頃、夏休みになると父から「ドライブに行くぞ！」「家族旅行に行くぞ！」と言われお寺巡りをしたことがあるのですが、それが四国八十八カ所巡礼だったのです。

子供の私は「お寺じゃなく、遊園地や動物園がいいなあ」と思った記憶はありますが、忙しい父だったので、どこかへ連れて行ってもらえるだけで嬉しかったのを覚えています。

厳肅な雰囲気のお寺について、参拝し、掛軸に御朱印をもらうのは私の担当でした。年に数カ所連れて行ってもらう程度でしたが（残りは、父一人で行っていたようです）、子供心に四国内なら八十八カ所なんてすぐに廻れるものだと思っていました。社会人になって詳しく調べてみると、1番札所～88番札所まで1,450キロもあり、最終の高野山のお礼参りまで考えると結構ハードなものだと思いました。

会社の上司や後輩など身近な人も巡礼経験があり、1回だけではなく複数回行く人もいます。

私も主人も目標（行きたいところ）がなければ遠出をしない性格なのですが、休みの日にはどこかへ出かけたいなあと思っているので、夫婦二人で四国八十八カ所巡礼を達成しようと思います。

人間には88の煩惱があり、四国八十八カ所巡礼をすることによって、煩惱が消え、願いがかなうと言われているそうです。にわかに信じ難いところですが、『信じる者は救われる』の精神で、かなえてほしい願いを思いつつ頑張りたいと思います。



【四国八十八カ所】



会員だより 株式会社ガイアート 植田 佐知子

我が家のマイブーム！

我が家のマイブームについてお話ししたいと思います。

家族構成は主人と、三歳違いの二人の息子です。男性陣は三人とも野球人。二人の息子は幼い頃からボール遊びが大好きでしたし、小学校に上がる頃には主人と上手にキャッチボールをしていました。お友達の誘いもあり、小学校のスポーツ少年団に入団。それからは二人がそれぞれ高校三年生の夏の大会が終わるまで野球三昧の日々でした。小学校、中学校、高校、どのステージでも親子共に交友関係が広がり、大変だったこともありますが、かけがえのない思い出ばかりで素晴らしい経験をさせてもらいました。今でも感謝しかありません。

長男が引退し、三年後に次男が引退し。それまで野球で詰まっていた週末の予定がぼっかり空いてしまった我が家…。あれ、週末って何したらいいんだろう（笑）

長男の引退の頃から何となくそうなる危機を感じ、主人と二人で四国八十八カ所巡りをしよう！とお遍路巡礼を始めました。一つ目のマイブームです。マイペースに巡礼しているので、もう4年ほど経ちますがまだまだ先は長いです。寺院の位置関係にもよりますが、近ければ一日に何カ所かまわることができます。少しの間、日常から離れ自然に囲まれた寺院で静かな時間を過ごす。お願い事など忘れて、ただただ心地よく、私にとってとても大切な時間のように感じています。



そして次男も引退したあとは、昔趣味でしていたゴルフを再開しました。二つ目のマイブームです。いつの間にか次男も一緒に練習するようになり、今では三人でラウンドに行けるようになりました。家族で共通の趣味を持てるのはとても楽しいです。今後は長男も巻き込み、お正月の家族ラウンドを恒例にすることが今の私の密かな計画です。

2022 サイクリング しまなみ!

2022年10月30日に開催された瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会に参加してきました。最初に開催された2014年大会以来8年ぶり2度目のしまなみサイクリングです。

このサイクリングイベントの特徴は、国内外から7千名の参加者を迎える日本最大級の国際サイクリング大会であることと、日本で唯一高速道路を走行することができるサイクリングコースとなっていることです。

コースは各自の体力に合わせて参加できるよう10コースが用意されており私は今治 IC を出発し生口島経由で今治市役所に戻るコースを選びました。



写真奥が今治 IC

1時間ほど並んでようやく今治 IC の出発ゲートが見えてきました。

約250人が、4分間隔で出発していきます。今治 IC から出発する人数は約4700人、最初のスタートは7時30分で最後は9時ごろになります。

私の今治 IC 出発は8時20分の予定ですが、1時間ほど前から整列開始です。

自転車で走り体が温まることを前提とした服装なので11月の朝はさすがに寒いです。コースごとに整列し出発ゲートへと進みます。



この日はとても天気がよく、瀬戸内海の多島美を眺めながらしまなみ海道を快適に走行できました。

また、エイドステーションでは、タイめし、じゃこ天、レモンケーキ、焼き豚など今治の特産品が振舞われ、高校生や住民の皆様がスタッフとして大会を盛り上げていました。



エイドステーション

編 集 後 記

七草粥も終わり、季節は冬本番へと向かい始めました。

寒いですが個人的には夏よりも快適に過ごせる季節です。

令和4年度はコロナ禍のなか、四国支部の業務もようやく正常化に向けた年となりました。5月には道の駅小松オアシスへの発電機等の寄贈、6月には支部総会、四国地方整備局等との意見交換会の開催、11月の令和4年度大規模津波防災総合訓練への参加、コンプライアンス講習会の開催、12月の道路舗装に関するWeb技術講習会、i-Construction講習会、安全パトロールなど本年度の事業目標を無事に実施することができました。これも会員の皆様のご協力によるものと改めてお礼申し上げます。

また、新しい取り組みとして、今年度より四国支部広報誌を毎年1月に発行することになりました。今回執筆いただいた皆様は創刊号ということもありご苦勞されたことと思います。ありがとうございました。

誌面では、会員間の親睦の場として各社のトピックスや社員のご紹介をお届けすると共に、これまで見る機会が少なかった支部活動をお伝えしていきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、あと3か月もすれば桜の季節を迎えます。桜は夏に花芽を準備し冬の時期は休眠状態に入ります。そして、寒い時期が一定期間続くとその後、休眠打破と言って2月には休眠から目覚め4月の開花のための成長を始めるとのことです。桜と同じではありませんが、日頃の準備を怠らず成長を目指せる年にしたいと考えております。

これから寒い時期が続きます、ご自愛頂きますようお願い申し上げます。

令和5年1月

事務局長 圖子正典

発 行

一般社団法人 日本道路建設業協会四国支部

〒760-0017 高松市番町4丁目8番20号

TEL 087-861-6501 FAX 087-861-6502

E-mail shikoku-dohkenkyo@onyx.ocn.ne.jp

表紙写真 小豆島エンジェルロード(天使の散歩道)

1日2回 干潮時に海の中に現れる砂の道